平成 28～29 年度　唐津市教育委員会指定
いきいき学ぶからつっ子育成事業

平成 28～29 年度 研究のまとめ

主体的な活動を通して学びに向かう生徒の育成

Kagami

learning

アクティブ・ラーニング始めました！

平成 29 年 10 月 10 日（火）

唐 津 市 立 鏡 中 学 校

Ⅰ　平成28年度　唐津市立鏡中学校　校内研究計画

１　研究テーマ

主体的な活動を通して，学びに向かう生徒の育成

２　テーマ設定の理由

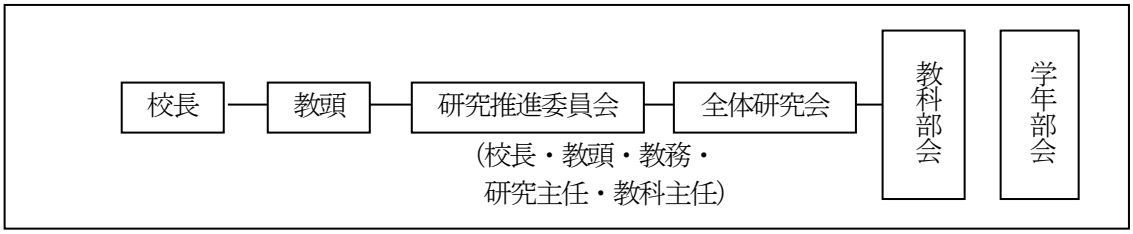
今やアクティブ・ラーニングへの期待は急速に高まっている。その発端となったのが中央教育審議会（2012 年 8 月 28 日）の答申である。この答申には，学習者の「受動的な受講」から「能動的な学修（これまでは学習であったが，答申では学修）」への転換が必要とされており，そのことを「質的転換」とうたっている。つまり，「学習者である生徒が受け身ではなく，主体的に授業を受けられるようにしよう」ということであると考える。このことを踏まえ，アクティブ・ラーニング（能動学習，能動的学習）の授業をしている状態を例えるならば，教室の中でみられる普通の風景，すなわち，生徒が，前を眺めている・聞いている・ノートを取っている，という従来型の学習「以外」の活動をすべて包摂するような活動のことであると考えることができる。アクティブ・ラーニングをしている状態の例としては，以下のようなものをあげることができる。「クラスの中で，生徒たちが討論している」「学んだことを生徒同士で共有（シェア）している」「文字数や時間を限定して短いレポートを筆記させる」「3 名から 6 名程度の互いに協働するグループをつくる」「学生の間で形式的な論争＝ディベートをやる」「ビデオ映像を観た後で感想を披瀝させる」「遊戯性を伴ったゲームをおこなう」などである。このような授業形態を通して知識の活用力である「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」などの力や能力を身に付け，「知っていること，できることをどう使うか」を追求し，生涯にわたって学び続ける力，主体的に考える力を持った人材の育成を図るものと考える。

本校は，過去 5 年間，キャリア教育を推進し，学校・家庭・地域との連携を図りながら，学力の向上を図るための基盤をつくり，活力ある学級集団をつくるための様々な手立てについて研究を進めてきた。昨年 12 月に実施された県学習状況調査では，第 1 学年の英語が県平均を上回るなど成果もある程度見られた。これまでの研究内容を生かしながらも本校の課題である学力向上に向けて，全教科，全職員でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に取り組むことにした。

研究を進めるにあたっては，本校としてアクティブ・ラーニングをどのようにとらえ，また指導法を試行錯誤していく中で，本校独自のアクティブ・ラーニングの指導方法を確立していきたいと考える。

以上のような理由から本主題を設定した。これらの研究実践を通して子どもたちが主体的な活動を通して，学びに向かう生徒の育成を目指していきたい。

３　校内研究組織



４　研究内容

◎　学力向上に向けて，全教科・学校教育活動全体を通して研究実践に取り組む。

校内研究推進委員会

- 生徒へのアンケート調査実施と分析
- データ分析とその活用
  （全国【4月】調査・佐賀県学習状況調査【4月及び12月】結果の分析と活用）
- 学習環境整備（主に学習に関する掲示物の作成と掲示等）

教科部会

- アクティブ・ラーニングを取り入れた指導法の研究
- 知識・技能を活用する力（言語活動の充実）の育成に関する研究
- 学習意欲を向上させる手だての研究
  （教師のファシリテ―ション能力・スキルの向上）
- 年間指導計画の工夫
- 各教科の指導法の研究
- 視点を入れた校内または教科内授業研究の計画と推進（各教科１回以上）

５　研究の成果（検証の方法）

- 生徒へのアンケート調査（前期と後期の2回）の比較及び分析
- 県学習状況調査（4月と12月）の比較及び分析

６　年間計画について

日程	校内研究会内容
① 4 月 22 日（金）	（校内研究推進委員会①） 研究テーマと校内研究組織の提案
② 5 月　2 日（月）校内研究会①	（全体会で提案） 研究テーマと校内研究組織の提案
5 月 24 日（火）	（校内研究推進委員会②） 第 2 回校内研究会の内容について
6 月上旬	生徒アンケートの実施①
③ 6 月　1 日（水）校内研究会②	（全体会） 授業研究会①　英語科，理科，社会科
7 月上旬	（校内研究推進委員会③） 第 3 回校内研究会の内容について 指導案様式の検討
④ 7 月 20 日（水）校内研究会③	（全体会） 指導案様式の提案
⑤ 8 月 9 日（火）登校日 校内研究会④	（教科部会） 指導案作成及び検討①
⑥ 8 月 22 日（月）　校内研究会⑤	（教科部会） 指導案作成及び検討②
9 月上旬までに	指導案の提出
⑦ 9 月 28 日（水）　校内研究会⑥	（全体会） 指導案の校正及び確認
⑧10 月 26 日（水）　校内研究会⑦	（全体会） 指導案の完成 11 月の授業公開の準備，リハーサル
10 月中	生徒アンケートの実施②
⑨11 月 25 日（金）　校内研究会⑧	（全体会） 唐津市学力向上研究会（授業公開） 全教科・全職員
⑩12 月 21 日（水）　校内研究会⑨	（全体会）授業公開の反省 （教科部会） ２学期の成果と反省

⑪ 2月 1日（水） 校内研究会⑩	（全体会） 授業研究会②
⑫ 3月 1日（水） 校内研究会⑪	（教科部会）今年度の成果と反省 （全体会）各部会報告と次年度の課題

７　その他

校内研究会１週間前に校内研究推進委員会を開き，校内研修会の内容や進め方について打合せを行う。

Ⅱ　研究の実際

１　４月当初の職員室の空気と１学期

（１）11月25日（金）の公開授業は決まっている！

前年度末に，「アクティブ・ラーニング研究指定校」は決定していたが，いわゆる授業力向上に限定した校内研究ではなく，校内研修として，指導方法改善，教育相談，環境整備，含む研修など多岐にわたる総合的な研修として位置づけていた。無論，次年度（H28年度）からは「アクティブ・ラーニング」による授業力向上を柱とした校内研究を進めていくことの見通しは持っていたが，アクティブ・ラーニングの研究については五里霧中であった。

（２）４～５月は進展せず！

平成28年度は職員の異動も12名の転入。校長以下，新規採用を含む約半分が入れ替わった。４月は学年・学級の立ち上げ，GWをはさみ，３年生は修学旅行，特に４月１４日の熊本地震の影響もあり，行き先変更のための対応などが重なり多事多端。アクティブ・ラーニング実践のための教材研究をする時間さえ見出せない状況であった。そのような折に研究主任の伊東泰弘教諭（社会科）自らが研究授業を行うことが提案され，それに追従するかのごとく，教務主任の大野誠教諭（理科），１年担任の古川直子教諭（英語科）の３人が提案授業を行うこととなり，期日は６月１日と決定した。

（３）当面のアクティブ・ラーニング実践に関する共通理解

まずは，アクティブ・ラーニング実践のための共通理解を次の３点とした。ただし，教師個々の実践はその教科ごとの理論研究や教材研究に差異があるものであり，横一線同時進行するものではないため，②と③については教師本位によるものとした。加えて，本研究は授業者が自身の普遍的な授業構成力とするものであり，中・短期的に向上する授業実践力ではないものであるため，教師一人一人の実態とモティベーション，さらには学校や生徒のあらゆる実態を考慮した上に時間をかけてゆっくりと進めるべきものであるとの指針に基づくものであるとの共通理解も行った。

① めあてを板書すること。
② 「パーソナル・ワーク」，「グループ・ワーク」，「クラス・ワーク」の言葉を授業中に使用すること。
③ 授業では必ず，グループ・ワークを取り入れること。５分は１０分に，１０分は１５分にするように手立てを仕組むこと。

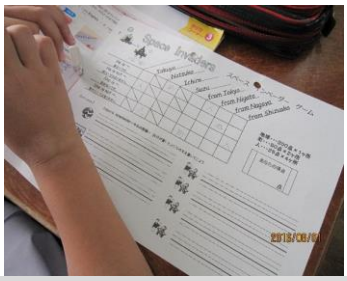
２　社会科，理科，英語科のアクティブ・ラーニング提案授業は６月１日

提案授業の日時決定に伴い，当日日程についての会議を持った。結果，１１月２５日に向けての第一歩であり本校にとっても貴重な時間となるため，提案授業の対象学級のみを残して，他のクラスは一斉下校とした。対象学級は１年生の１組から３組の３学級。２～３年生は下校とした。

（1）古川直子教諭の英語科アクティブ・ラーニング（1年1組）

授業は，「be動詞の形・意味・用法を復習し，肯定文，否定文，疑問文の作り方を説明できるようになる！」とのめあて設定に基づいた展開であった。「つかむ」の段階では丁寧に本時めあてと見通しを確認し，「考える・深める」段階ではグループ・ワークに時間をかけた生徒主体の活動を重視した展開であった。特にグループ・ワークではめあてに即した「～を説明できる！」を班用マグネットボードにまとめ，黒板に掲示し実際に説明するという学習活動を仕組んだ。「確かめる」段階では，生徒が習得した学習内容を授業者が中心となって確認し，その後授業のまとめをパーソナル・ワークで行う形態であった。

①「つかむ」段階



②「考える・深める」段階

③「深める」段階から「確かめる」段階

本代表授業の良さは，英語科授業特有の語学の習得を柱とし，授業者が生徒に教えなければならない内容を明確にし，丁寧に一斉授業を仕組んだこと，めあてに準じ説明できるようになることを前提とした授業構成であったこと，グループ・ワークでは学習リーダーを中心に班員の考えをまとめ発表できたことである。

（2）大野誠教諭の理科アクティブ・ラーニング（1年2組）

授業は，「蒸散は，葉の表と裏のどちらでさかんだと考えられるか説明できる！」とのめあて設定に基づいた展開であった。導入時には，小学校の学習を思い出させるような活動が設定され，葉の表と裏で蒸散の量がどのように違うか，クラス・ワークで演示実験を行った。次の考察では，表にワセリンを塗り，「呼吸は表か裏か」まず自分の考えをワークシートに記入したあと，グループワークで議論していた。まとめでは，ワークシートにキーワードを記載し，学んだことを振り返る手立てが取られていた。

（3）伊東泰弘教諭の社会科アクティブ・ラーニング（1年3組）

授業は，「縄文時代と弥生時代，どちらが暮らしやすいのか説明できる！」とのめあて設定に基づいた展開であった。様々な資料を基に，縄文時代と弥生時代の長所（メリット）と短所（デメリット）を読み取り，理由（根拠）を述べながら説明する授業展開であった。

授業の流れとしては，「前時の復習」→「めあての確認」→「グループの発表」→「反対意見」→「最終的な立場の話し合い」→「発表・まとめ」であった。意見が活発に出て，盛り上がったが，意見交換の司会を生徒に任せたり，各グループからの発表方法に

工夫を加えたりすると，さらに生徒主体の授業形態になる。

（４）授業研究会

授業研究会では学力向上推進教員の牛草美佳教諭から，①今回の代表授業について，②３つの視点を提示したアクティブ・ラーニングの考え方について，③グループの形態と班の人員数，及びグルーピングの方法を取り上げたグループ・ワークについて，最後のアクティブ・ラーニングによる目指す生徒の姿を見据えた鏡中の学習ルールづくりの方法について説明をしていただいた。

授業のコメントについては次の通りである。

≪牛草先生のコメント≫

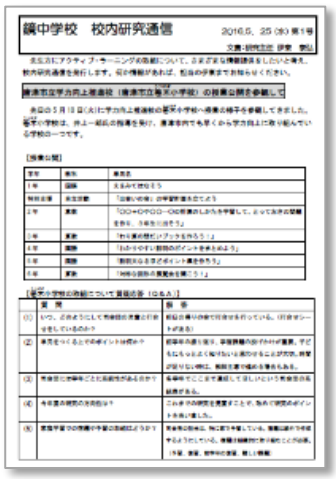
□　英語科古川直子教諭の授業
- 生徒が楽しんで,たくさん英語を使って話していた。
- 最後に文法のきまりを確認するための適用問題をさせていた。
- ふり返りシートは学びの履歴になる。

□　理科大野誠教諭の授業
- 導入時の小学校の学習を思い出させる活動がよかった。
- 考察をどう表現するかは大切で難しいところ。
- 表にワセリン＝呼吸は表か裏かグループワークで議論していた。

□　社会科伊東泰弘教諭の授業
- 意見が活発に出て,意見に対する賛同の拍手もあった。
- 何を聞き取ってメモをすべきか,汎用的スキルを身に付ける場面もあった。
- クラス・ワークの発表は単調にならないような工夫を。

３　授業力（アクティブ・ラーニング）向上の醸成を目指した取組

（１）鏡中校内研究通信の発信　…資料


鏡中学校　校内研究通信

アクティブ・ラーニングの推進は校内研究を核としながらもその取り扱う内容で教師一人一人の授業力向上にアプローチするものである。しかし，日々の授業においては授業前のグループ・ラーニングの手立てを計画したり，教壇に立ったときにめあてを考えて提示したりすることが多い。ましてクラス・ワークにおいては文字数限定でまとめさせたり，めあてに迫る意見を述べさせたりしなければならない。そのような日々の実践の積み重ねが教師一人一人の授業力向上へとつながるものである。そのためには，日頃からのアクティブ・ラーニング実践に関する職員室の機運の高まりが重要だと考える。

そこで，定期的に校内研究通信を発行することとした。紙面では研究発表校の紹介，井上一郎先生からの指導内容の伝達，また校内研究会では時間的に取り扱うことのできなかった情報等の紹介である。

本通信発行により，職員室の話題が授業手法に関することであ

ったり，日々の授業実践の手がかりになったりするものとなった。

（２）アクティブ・ラーニングガイダンスの実施

アクティブ・ラーニング本格実施にあたり，全校生徒に向けたアクティブ・ラーニングガイダンスを行った。一般的な授業の流れ，授業に臨む姿勢や予習，復習に関する内容，アクティブ・ラーニングに対する生徒意識集計結果（Ⅳ資料Ｐ24参照）などを研究主任の伊東泰弘教諭がプレゼンテーションした。

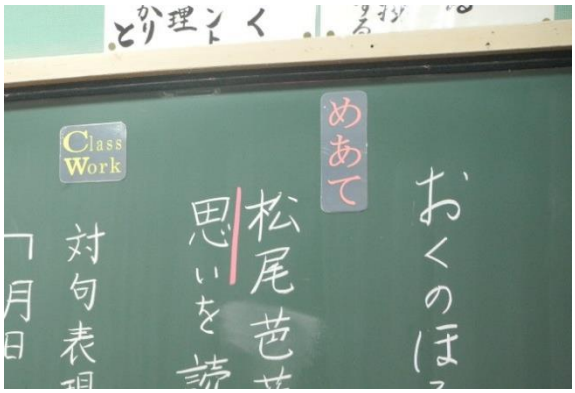
（３）アクティブ・ラーニングに関する環境整備

① アクティブ・ラーニング用黒板カード

アクティブ・ラーニングの実践については，全ての教科において共通した授業展開を教師が生徒とともに意識することを重視するために授業展開カードを作成した。詳細は，必ずめあてを板書すること，パーソナル・ワーク，グループ・ワーク，クラス・ワークの内容と時間配分を示すことである。

３年社会科（公民）坂本大策先生

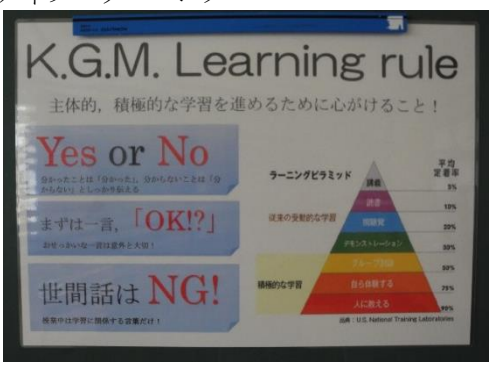
パーソナル，グループ，クラス・ワークの時間配分の指示



３年国語科　吉田三重子先生

② 「この３つだけを心がけよう」でスタートするアクティブ・ラーニング

「鏡ラーニング・ルール」は全教室の黒板に掲示した。



アクティブ・ラーニングを展開する際，少なからず多くの授業者が困り感を持つ。その困り感はアクティブ・ラーニング実践に対する消極的要素となる。

その要素は次の通りである。本校校内研究でも同様の困り感が明らかとなったため，組織として困り感軽減に向けた協議を行った。

困り感(ア)．グループ・ワーク時に生徒同士のかかわりが薄い。
困り感(イ)．主体的に学習を進める際に思考が停滞したり，時間内に課題解決できなかったりする生徒がいる。
困り感(ウ)．アクティブ・ラーニングでは学習に関係のない話をする生徒がでてくる。

授業者が教科の特性や授業力の差異でアクティブ・ラーニング実践にブレーキがかかってはいけない。困り感は全体で共有し，全体で解決できる見通しがつけることが望ましい。そこで，校内研究会ではそのことを協議し，本掲示物の作成をした。

あ．困り感(ア)．について

Yes or No で意思表示をする

生徒間のかかわりは仲間の説明を聞いて分かったか，分からなかったかの意思を相手に伝えることが重要である。「分かった。」「分からない。」の意思表示をすることで，聞き直したり，分かりやすく説明しようと心がけたりするものである。そこで，このキーワードの使用を定着させることとした。

い．困り感(イ)．について

まずは一言，「ＯＫ！？」

思考が停滞していたり，学習内容と関係のないことを考えていたりする場面は多々ある。また，班員の中には活動に参加できていない者もいる。そこで気付いた者が「ＯＫ！？」と発し活動を活性化させることを重視した。ややもすれば「ＯＫ！？」は相手にとっておせっかいと取られ，トラブルのきっかけともなりかねない。しかし学習場面における「おせっかい」を教師が生徒とともに肯定的にとらえることでより良いかかわりのきっかけともなる。そこでこの言葉を取り上げた。

う．困り感(ウ)．について

世間話はＮＧ！

アクティブ・ラーニングでは学習に関係のない話をする生徒がでてくる。そのような場面で教師は対象生徒に対して，「無駄話はいけませんよ。」と声かけしていた。しかし，授業中の空気感が停滞したり，注意を受けた生徒のモティベーションが低下したりする。無論，厳しく指導したり，授業の臨む姿勢や態度で何が欠けているかなどを分かりやすく伝えるための言葉かけも大切であるが，この言葉をキーワード的に使用することで学習場面においてしてはいけないことを教科間で横断的に連携した指導を一様にできることは有効であると判断した。そこで，この言葉を３つ目のルールとした。

また，「鏡ラーニングルール」には右側にラーニングピラミッドを差し込んだ。このラーニングピラミッドから分かるように学力の定着は，積極的な学習とは主体的に学習を進め，思考を深める上で重視したい「人に教える」活動である。校内研究会でも，授業めあては「～を説明できる！」としたこともラーニングピラミッドに起因する。また，常時掲示する意図は，学習内容の定着は「人に教える」や「自らが体験する」などの主体性が効果的であることを視

覚的に意識させるねらいを持つ。さらに授業実践する授業者が常に主体的な授業形態を意識しながら授業を展開させるねらいもある。

③　校内壁面の利活用について

前年度までは，環境整備に関する組織を校内研究会に設置していたが，アクティブ・ラーニング実施に伴い，壁面活用を再検討するとともに，今年度は全ての教師が自己の授業力向上を図ることを第一義としたため，教科ごとの授業手法の研究に絞ることとした。壁面活用の再検討の理由としては，掲示したい教科ごとの内容はアクティブ・ラーニングを実施してみて明らかになったり，掲示物の配置に関してはその都度掲示物が作成されてからでないと見当がつかなかったりする。つまり，教科ごとにスペースを設定し，掲示物の内容を教科任せにするのではなく，アクティブ・ラーニング実践の中で見えてきた課題や，学力調査等に基づく掲示物の作成が優先されるべきであろうとのことからである。

生徒にとって，壁面の学習環境整備が，自己の学習の振り返りの場となったり，学習に見通しを持ったりすることができる場としたい。「ここに来れば気になっていたことが解決できた。」や「どんな言葉を用いて記述すればよいのだろうか。」と考えたり，「その場所を通る際に何気に掲示物が目に入ることで，その学習に興味・関心が芽生えたことに気付いた。」と感じたりする，温かみのある優しい壁面環境整備を考えたい。

小学校は上述のねらいが日常的に定着しており，その実践は明らかに先行研究と言える。今後は近隣の小学校を視察するなどして中学校の壁面学習環境整備力を高めていきたい。なお，現在は下画像のような取組を国語科や社会科を中心に行っている段階である。汎用的なスキルを身に付けさせるために今後，各教科での取り組みに広げていきたい。

「階段ラーニング」…階段を上がるだけで知識・理解とさせたい。

２階「ホールラーニング」

玄関「ニュースラーニング」

拡大すると・・・

２階「壁々ラーニング」…壁を見るだけでなぜか頭に入る

歴史の年代ごろ合わせ

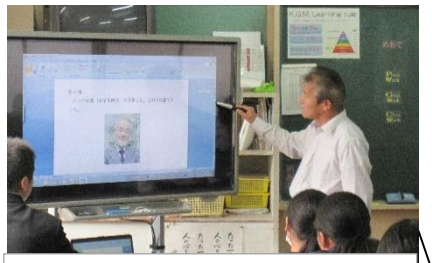
（４）井手博司教頭による提案授業

10月13日（木）６校時，３年３組において実施された。

校内研究計画には予定していなかったが，自身の授業力向上及び実践に裏づけられた指導助言力向上を目指しての取り組みであった。

【学力向上推進教員の牛草美佳教諭からのコメント】

① 学習指導案の記述が，授業の流れ方や生徒の実態（記述レベル）がよく分かるものであった。
② 単元名と本時のめあての関係性がよく分かるものであった。
③ 導入での動機付けの工夫が生徒たちの実態にぴったりであった。
④ 提示された資料に学び（科学的な思考を促す）のポイントが仕組まれていた。
⑤ 考察の仕方という汎用スキル（いろいろな場面で活用できるスキル）が鍛えられる単元であった。
⑥ 発表の際のラーニング・スキルの指導（介入）のタイミングが完璧であった。
⑦ 余計な指示や説明がなかった。



「つかむ」は時事ネタのノーベル賞で興味関心を高める。新聞記事とＩWBを活用。

研究主題　主体的な活動を通して、学びに向かう生徒の育成

第３学年３組　理科学習指導略案（生物分野）

平成２８年１０月１３日（木）　６校時場所　３年３組教室　指導者　井手　博司

１　単元名　生物個体数の調査結果をもとに、食物連鎖の数の関係を考えよう

２　本時の学習

（１）本時の目標

・資料をもとに食物連鎖の数の関係を考察することができる。

・他者の考察を聞きながら、科学的に考察する力を身につける。

（２）本時の評価

・自分の考えを班や学級で話し合い、科学的に考察をすることができたか。【科学的思考・表現】

（３）本時の展開

	学習形態と学習活動	教師の支援活動	教材等
つかむ	パーソナルワーク　5分（14：45～） ① 既習事項を確認する。 ② 本時のねらいを確認する。	ラーニングルールの確認！　ねらいの確認！ ・「食物連鎖」について確認させる。 ・ワークシートでねらいを確認させる。 ・学習活動の時間配分についても伝える。	ワークシート
めあて：３年３組ノーベル賞を目指して、生物の調査結果を考察しよう。			
考える	パーソナルワーク　5分（14：50～） ③ ウサギとヤマネコの個体数調査結果について、食物連鎖の数量関係を自分で考察する。 ※自分の考察をワークシートに二つ以上記入する。	個人で考察に臨む！ ・調査結果を電子黒板で提示する。 《自力解決への支援》 ・どんな些細なことでも、結果をもとに自分で気づくことを支援する。 ・無回答が消極的な学習であることを説明する。	電子黒板 ワークシート
考える	グループワーク　15分（14：55～） ④ 班内のいろいろな考察を検討し、班として一つにまとめる。 ※まとめた意見を発表用短冊に記入し、黒板に掲示する。	グループで考察に臨む！ ・個人の考察だけでなく、班で積極的に新たな考察も考えさせる。 《グループ解決への支援》 ・科学的な視点からの考察を班の発表として考えるよう支援する。 ・各班を机間指導し、学級全体に発表したほうがよい考察については助言する。	ワークシート まとめ短冊
深める	クラスワーク　20分（15：10～） ⑤ 各班から発表された考察の中から、学級で話し合い、３年３組ノーベル賞候補を選考する。 《予想される考察》 ・ウサギの数がヤマネコの数より多い。 ・ウサギが増えるとヤマネコも増える。 ・ヤマネコが増えるとウサギが減る。 ・ウサギが減るとヤマネコも減る。 ・ヤマネコが減るとウサギが増える。 ・ウサギとヤマネコの増減が繰り返される。 ・縦軸のスケール（目盛）が違う。	よりよい意見の集約 ・総務にクラスワークの進行をさせる。 ・選考に際しては、選考理由を明らかにするよう助言する。 《期待するノーベル賞授与の考察》 自然界では、生物間の数量関係のつり合いが保たれている。 ウサギのヤマネコの数のピークがずれている。	まとめ短冊 ワークシート
確かめる	パーソナルワーク　5分（15：20～） ⑥ 決定した３年３組ノーベル賞考察を確認し、ワークシートに記入する。 ⑦ 結果を考察するとき、大切なことはどんなことかを考え、ワークシートに記入する。	再構築！ ・理科の学習で実験・観察した結果を考察する活動場面は多く、今後の授業で活用できる意見を紹介する。	ワークシート

「めあて」と深化３活動の指示。めあては導入時の話と関連している文言。

「考える」ではＰＷを中心に机間指導で個と個をつなぐ，個別指導，可視化に終始する。生徒主体の活動場面では一切の指示はしない。

「深める」ではグループの意見を文字数限定で集約，マグネットボードにまとめる。

クラス・ワークでは班毎に発表。他班からの質問や意見で再構築。「確かめる」では全体の意見を教師がまとめ，本授業のポイントである「データを科学的に読む」を丁寧に解説。

（５）先進校視察の報告会

先進校視察における授業参観，授業研究会参加に重きを置いた。先進校視察では，めあての作り方，授業者の指示や目線，ＩＷＢ等の利活用の技術，あるいは生徒の様子（学習者同士のかかわり方等）の実際の直接見て感じることができる。意欲を持ってアクティブ・ラーニングを実践しようとするときに先進校視察が最も大きな効果を上げると考えた。また，出張者は後日校内研究での報告を行い，研修内容の共有を目的とした報告をすることとした。

	日時	視察先
1	5月10日（火）	箸木(うつぼぎ)小学校授業公開（伊東）
2	7月4日（月）	肥前中学校「活用力」研究発表会（宮﨑裕, 大浦） 大志小学校　学力向上授業研究会（伊東）
3	7月8日（金）	第一中学校　主権者教育公開授業（坂本, 伊東）
4	7月13日（水）	城北中学校　授業参観（古川, 古賀）
5	8月2日（火）	唐津市学力向上フォーラム（全職員）
6	8月19日（金）	鏡山小学校校内研究会　※井上一郎氏来校（伊東，原田）
7	9月16日（金）	厳木中学校　授業公開（伊東）
8	10月14日（金）	西唐津中学校　授業公開（大浦）
9	11月12日（土）	福岡教育大学附属久留米中学校　授業公開（校長, 大野）
10	11月14日（月）	第一中学校　授業公開（校長）
11	2月9日（木）	国立第一中学校　授業参観（校長, 伊東, 大野, 大浦）

（６）１１月２５日（金）の授業公開日は，７４名の参観者あり！

１１月２５日（金）の唐津市学力向上指定の授業公開では, 県内から７４名の参観者があった。午前中は, 中学校で午後は小学校で授業を公開した。鏡校区で指定を受けていることもあり，小中連携の観点からそれぞれ互いの授業を参観した。

【鏡中授業公開の様子】

古賀先生の授業(1の2)

伊東先生の授業(2の3)

古川先生の授業(1の3)

【鏡山小授業公開の様子】

小学校低学年（１年生）

小学校中学年（３年生）

小学校高学年（６年生）

井上一郎先生の指導内容

※これは授業参観時における井上一郎先生からの指導内容をまとめたものです。

〇全体について
　先生方がよく頑張ってアクティブ・ラーニングを実践しようとしているのが伝わった。今日突然始めたグループ活動ではないことが伝わった。

〇　授業について

社会科

単元づくりの趣旨がとてもよい。
具体的には授業は,
・生徒が自分たちで決めた調べ学習のテーマであること。
・プレゼンで用いられている資料が,生徒自身が見つけてきたもの（英語で書かれた資料）であること。
生徒が発表資料を配布用に準備できるようになるとアクティブがインタラクティブ（＝対話・双方向・お互いに作用し合う様）になる。配布資料を作るためには調べたことの要約力も必要となる。
生徒が発表を聞く視点が発表の仕方になっているので,配布される資料があれば「社会科」の学力観に沿った議論となるだろう。
また,ワークシートで各班の発表をメモする欄が小さい。ワークシートを２Ｐにして,片方のページに各班（チーム）のプレゼン力（論理性・資料の適切さなど）をメモし,それについてお互いのプレゼンをチームとして評価できるように（チームで対抗するイメージ）伸ばしていきたい。
調べた資料を発言,音読するだけではいけない。発表原稿を読み上げるのではなく,プレゼン力も育てたい。

教科書の解説をする授業はやめて,生徒が活動する場面を仕組める単元を計画する。
グループ学習を苦手に思っている生徒もいるようだが,慣れさせることが大事。誰とでもコミュニケーションをとる力はつけておかないといけない。

唐津市の対策を考える授業では,生徒の考える対策が思いつきにならないように資料データを踏まえて論理的に考えるステップがいる。中３生であれば資料をクリティカル（＝批判的）に読む視点や情報をうのみにしないスキルを鍛えたい。例えば３つの要因から１つの結論を出しなさいという課題など,シンキングの能力を鍛え,メリット・デメリットの両面からアプローチできるようにしたい。また,ＧＷやＣＷでは,思い付きの考えが見られた場合には考えが浅いと指摘できる生徒を育てたい。これらは家庭科の授業も同じ。

２年生の授業ではきちんとＡＬの授業スタイルになっていた。発表する生徒はきちんと舞台に上げる。そうしないと発表の対象が先生になってしまう。キーワードになるカードが黒板の左側にあった。子どもたちが既習事項をもとに予想し学ぶことの見通しが持てる工夫であった。

英語科

Which や it～for…to 使ったどんな Can-Do なのかが見えない。単元名の事項の部分が文法の知識になっていることを変える。
Can-Do が, 文法中心で作られているのならば, 作り直すことが必要。
学校独自で生徒の実態に合わせて作ることが大切。
学んだ文法を使って紹介する単元ではなく, 紹介するために学ぶ単元を作ること。
文法の問題を解くような授業構成にしない。
このままでは生徒が英語を話せるようにはならない。単元をリーディング・グラマー・スピーキングに分けているのなら分かるが, 単元構成はそうなっていない。
学習活動であるアドバイスをするなら, 表現的にどのようなものを使うのかというところから単元を考えるとよい。

音楽科

基本的には生徒が楽しくやっているのでよいが, 先生の指導があってよい。このような学習活動の場合, モデリングの時間を作るなどの工夫が必要。単に平等に時間を渡すのではなく, どうしたらボディーパーカッションの技能が高まるか考えて工夫するのが教師の役割。
どうしてもリズムの取れない生徒もいるので, できている生徒たちを集めて, お手本にしたり, 先にパート別に練習したりするとよいのではないか。
さんざんできない体験をさせて, 最後に帰納的に説明する方法もあるが, 技能教科の場合, 先生のアドバイスが生きる。

理科

授業では, 考察を書かせるときは, 文字数, 文章の数, グラフや表を入れるのか入れないのか指定をしたい。
ホワイトボードに出てきたものが, 様々なものが入り混じっていると, 教師の補足が的確にできない。
ＷＳの結果の記述の欄がメモになっていたが, シンキングの能力が不十分な生徒のために, 番号を振るとか, フローチャートにしておくなどの支援があるとよい。

３校時目の授業全般

３校時目で共通して言えることは, 書くところが量的に少なすぎる。事実記述と考察の区別がついていない。生徒に記述力がないのなら, 記述力を高める授業を計画するべき。

数学科

数学のＰＷではワークシートに書けていないのに先に進んでしまっていた。予備知識そのものが弱いことに気付かなければいけない。小学校で学んだことが思い出せていない。また, 先生自身も, どんな要素で記述させるべきかを分かっていただろうか。
先生の口頭での説明「辺の長さを使う」という言葉そのものを理解できていないと感じた。ならばどのような要素に分類することができるのかを既知として持たせておくべきである。
書けていないのに, 無理やり次のステップにもっていかないこと。

（7）公開授業後の校内研究会（１２月２１日）教科部会での協議内容

保健体育（吉木） ・Ｇノートと個人ノートの内容を検討したい ・技能を高める時には一斉授業も必要である ・保健は電子黒板を使って，話し合いを入れる	社会（坂本） ・ワークシートのメモ欄が小さすぎる ・メモを取る力をつけさせる ・思い付きの意見ではなく，建設的な意見が出た
音楽・技家（堤） ・できる単元とできない単元がある ・アドバイスがいきるのはどこまでか ・技能的なことはアドバイスをしてから行う	数学（岩本） ・課題の設定が難しい ・ＰＷで自分の考えをしっかり持たせる ・短時間で復習できる方法を考えたい
英語（古川） ・授業展開例が分からない中，精一杯やってきた ・ひたすら文法を教え込むのも必要な時がある ・ＡＬの場面を参観してもらいたい	国語（吉田） ・ＧＷは慣れてきた ・生徒の発表は教師向けの発表になっていた ・学習計画一覧表をもっと活用したい
理科（原田） ・ワークシートの改良が必要である　・実験の結果からもう一つ上の話し合いができるようにする ・場合によっては，短冊を使うことも必要 ・つぶやきのコメントだけで，フィードバックがもらえないことが不満（指導と評価をしてほしい）	

（8）２月２日（木）公開授業　※井上一郎先生が参観

井上一郎先生を招聘しての校内研究会は，１１月の公開授業がゴールではなく，ここから授業改善がスタートするという意識を職員に持たせるために意図的に計画をした。３年生は，入試の時期に入っており，授業は１，２年生のみの公開とした。

校時	クラス（場所）	教科担当者	単元名
４校時	１の１（教室）	社会（古賀）	アフリカの貧困問題を救う解決策を考えよう
	１の２（教室）	国語（家永）	人物や情景を描いた表現に着目して作品を読み深めよう
	１の３（教室）	英語（古川・宮﨑彩）	自分の一日の生活について書いて発表しよう
	２の２（教室）	数学（井邊）	面積を変えずに図形の形を変える方法（等積変形）
	２の３（教室）	理科（宮﨑裕）	気象観測を行い,天気の変化の規則性を見出し,説明できるようになろう
５校時	１の１（美術室）	美術（下村）	自分の手を観察して再現しよう
	１の２（教室）	理科（大野）	力と圧力について調べる活動を行い,説明できるようになろう
	１の３（教室）	国語（隈本）	人物や情景を描いた表現に着目して作品を読み深めよう
	２の１（教室）	英語（宮﨑彩）	自分の好みや要望を伝えながら買い物をしよう
	２の２（教室）	社会（伊東）	日本の開国が与えた政治的・社会的影響を多面的にとらえ,「開国」か「攘夷」か,どちらがよいのか説明できるようになろう
	２の３（教室）	家庭（飯笹）	安全で快適に住むためにどのような住まいの条件が必要かを考え,説明できるようになろう

※３年生は，この日が私立高校の入試日で不在のため，授業を公開していない。

【授業公開の様子】

１の１　美術（下村先生）

１の２　理科（大野先生）

２の２　社会（伊東先生）

２の３　家庭（飯笹先生）

（９）２月２日（木）公開授業後の校内研究会の様子（会議室）

会議室での校内研究会の様子

校内研究会の内容

（１）　開会

（２）　校長あいさつ

（３）　井上先生からの授業講評・講話

（４）　質疑応答

（５）　来年度の研究（予告のみ）

（６）　閉会

井上一郎先生からの授業講評・講話

井上先生から，学校や教科関係からの質問事項にもご回答いただきました。※次頁に掲載

学力向上推進教員の牛草美佳先生より

「　県学習状況調査の結果から，鏡中の成果と課題を見つけよう　」

【講義内容】

⑴ 佐賀県学習状況調査の結果から読み取る・・・無解答率と正答率

⑵ 見てみましょう

　鏡中学校生徒の平成28年12月実施　佐賀県学習状況調査　正答率の低かった問題・無解答率の高かった問題（対県平均）を集めてみました。

担当教科外でも，鏡中の生徒がどんな問題でつまずいているかを見てみましょう
教科を超えて共通すること，自分の教科で取り組めることはありませんか？

⑶ ただ見るだけではもったいない

●自分の担当教科以外にも関心をもって
●出題のねらいを推測しながら

⑷ もう少し細かいデータを見ると・・・

１年生　英語科　「～適切な表現を用いて書く」（＝「①表現」・「②言語・文化」）
１年生　社会科　「～を説明することができる」（＝「思考・判断・表現」＝活用）

⑸ 佐賀県正答率との差の推移（同一生徒）

⑹ 終わりに

●授業改善は進んでいる。得点だけではなく情意面も
●伸びている教科（英語科や社会科）から学ぼう
●生徒の可能性を止めないで

井上一郎先生に対する学校からの質問事項と回答

	学校からの質問事項
質問	○家庭学習の予習課題として, 次時の学習課題を入れたワークシートを作成するべきでしょうか。あるいは, 次時のワークシートを配付して予習をさせた方がよいでしょうか。
回答	・家庭学習＝学力の３層の統合を行う場 （＊必要であれば学力の３層の資料をお渡しします。） 汎用的内容と教科の知識・統合をねらって行うこと。 ・学校での学習と家庭学習は同じ重みにした方がよい。 ・家庭学習は「予習」反転学習 「復習」単位時間／単元相互／単元を貫く知識 「補充」授業では定着が不十分な点 「発展」授業で活用したものを活用して ・家庭学習≠習ったもののドリル　←　ここを押さえておくこと。
質問	○単元の第一次で計画を立てるとき, 現在は教師が作った計画を生徒に提示しています。本来は生徒たちが計画を立てることがアクティブ・ラーニングだと考えられますが, 教科の特性や時間の制約もありできていません。ご助言いただければと思います。
回答	・アクティブ・ラーニングの目指すことの一つに,生徒のプランニング力を高めることが挙げられる。課題を解決するにはどうしたらいいのだろうかと,今までの知識や経験を生かそうとする場面を設定することは意義のあること。課題設定も学習計画もすべて先生が行っていては,学習力を高めていくことにはならない。
質問	○ＧＷで深めた後, ホワイトボードなどを活用してＣＷをしていますが, 各班の交流が形式的になってしまい, 意見を一つにまとめることができません。ＣＷでのポイントを教えていただきたいと思います。
回答	・話し合う目的がはっきりしているだろうか？単元のねらい,本時のねらいが明確でなければ,生徒もどのような考えを出せばよいのか戸惑い,様々な答えを出してくる。それは,設定したねらいが的確でなかったということ。生徒も教師も話し合う前に基準がはっきりしていなければ,議論はできない。 話し合いの場面で教師はＡについたりＢについたりしてかき混ぜることで多角的なものの見方や考え方を捉えさせたり,あえてとぼけたりするなど,支援の方法は柔軟にある。 教師がまとめを明確に持っておいて,生徒のまとめでは何が足りないのか,どのような記述が加われば正答として十分なものになるのかを指摘できるようにならなければならない。 その際,指摘するポイントは学習課題に沿った「知識・技能」「思考・判断・表現」「学び方」を観点にして評価したこと（できていること・できていないこと）を伝えればよい。

井上一郎先生に対する教科関係からの質問事項と回答

	教科関係からの質問事項
質問	○文法事項を教える時にどうしても講義形式の時間が必要な場面もありますが,それはそれでよいのでしょうか。
回答	・中学校の授業では,どうしても知識を与えなければならない場面もある。毎時間知識を与える授業では主体的な学習は設定できないことは周知のこと。しかし,単元のどの部分で講義型を取り入れるかといった,単元の設計ができればそれでよい。
質問	○英語の授業で話し合い活動に困難さを感じています。英語を使って話し合うレベルではないので,そうなると日本語ばかりの使用率になってしまいます。文科省の言う「All English」とのジレンマを感じてしまうところですが,そこをどのように解消したらよいのでしょうか。
回答	・まちがってはいけないとか,伝えたいことではないことを読むような子どもたちを育ててはいけない。英語を言語教育として行うためには大量の知識と語彙力が必要である。今日の英語の授業のように Use Expression を準備して生徒にどんどん使わせ,そらんじられるようにする試みはよい。そのような資料を巧みに使って話すという課題を設定できる。ただし,資料の作成は生徒が使いやすいように順序性に気を付けて。 ・クラスルームイングリッシュを,先に生徒に教えてほしい。また,発表の際には,絶対に書いたものを見るなというルールを徹底するとよい。プレゼンでは,単に前に出て書いたものを読むのではなく,自分の考えを聞いてほしいというマインドも育てたい。
質問	○技能教科は,もともと生徒が主体となって学ぶ教科ですので,さらにアクティブ・ラーニングを取り入れると教師の出番がなくなると思われます。教師はどのような役割で授業を進めていけばよいのでしょうか。
回答	・技能教科はメリハリが大切。説明が必要な時にはどんどん出ていく。介入のタイミングは教師の力量。その場その場での判断をしなければならない。生徒が活動する中で,戸惑っている場面があれば,全体の動きを止めてでも補足しなければならないことがある。
質問	○音楽鑑賞の学習では,生徒が音楽を聴いて気付いたことを出し合って授業を進めていますが,気付きが出せない生徒もいます。生徒たちが意欲的に気付きを出し合うアクティブ・ラーニングにするためのご助言をお願いします。
回答	・子どもが意見を言わないのは,意見を出させる手段を教師がとっていないということ。既習事項を押さえて,学習のスタートラインをそろえる導入を図っていないのではないか。鑑賞の分析の仕方は複数教科に共通する汎用的スキルである。

（９）３月１日（水）校内研究会
教科部会での振り返り（アクティブ・ラーニングの実践について）

【国語科】

成果と課題

◎グループワークの取り組みの割合は, 年度当初の目標を達成できた。
◎学習計画表があると, 授業の見通しが立てやすくよかった。
△話し合った内容をまとめるためのホワイトボードがグループの数だけ各教室にあると便利。
△アクティブ・ラーニングで深められた内容を, 定期テストにどう反映させるかが課題。

今後の予定や計画等

〇学習計画表を多くの単元で作成する。

【理科】

成果と課題

◎生徒たちが自分たちで進める形式に慣れてきている。
◎アクティブ・ラーニングにより, クラス内の雰囲気がよくなった。
◎授業のやり方を変えたことにより, 生徒がそのやり方に慣れて, 定着している。
△発言の多い生徒が主体的に見えるが, テストには反映していないことが多いので, テスト問題も変えていく必要がある。
△教師一斉講義型の授業から生徒主体型の授業への転換が必要。
△生徒の変化が表れているのか, 評価の工夫が必要。

今後の予定や計画等

〇評価の工夫やテスト問題の工夫改善。

【英語科】

成果と課題

◎場面設定はよくできたが, 評価が難しい。
◎教え合い, 学び合いのおかげで分からないことをそのまましない生徒が増えた。
◎2 月末段階で, 分かる生徒の割合が例年に比べて高い。
◎テストで無解答の割合が減った。
△毎時間のアクティブ・ラーニング実施は難しい。
△できる単元や題材, やりにくい単元や題材がどうでしても出てきてしまった。
△与えられた課題をこなすことで終わることが多かった。
△ＡＬＴを利用したアクティブ・ラーニングはまだ模索中である。

今後の予定や計画等

〇4 技能のバランスを考えた課題設定の方法
〇学期に１回, パフォーマンス・スピーキングテストの実施

【社会科】

成果と課題

◎ワークシートをもとに, 分からないところを尋ねて解決する姿勢が見られた。
◎グループ活動は, 子ども同士, 話しやすい雰囲気（あたたかい雰囲気）を生んだ。
◎グループ活動を取り入れたことで, ＰＷからＧＷへスムーズに活動できた。
◎何とか書こうとする生徒が増えた。
△時間の工夫が必要。
△おもしろい課題設定ができなかった。
△今後, どうステップアップさせていくか。聞いたことを書き留める力も必要。キーワードを書く力, メモを取る力, 聞き取る力を身に付けさせることが必要。

今後の予定や計画等

〇ワークシートの工夫改善を図る
〇グループの枠組み（学び合いかごましお４人組）を検討していく。

【数学科】

成果と課題

◎ＧＷをたくさん取り入れ, 対話的な学習も増えた。
◎自己評価をさせることができた。
△グループを作って活動させたが, グループでのコミュニケーションがうまくいかないグループもあった。

今後の予定や計画等

〇体調不良で, ワークシートの作成時間が思うように取れなかったので, 今まで学んだことを活用したワークシートの作成を検討している。

【保健体育科】

成果と課題

◎球技（バスケットボール）ゴール型からネット型, 武道などへ広げていきたい。
◎実技の本を利用しての教え合いはできていた。
△反省までなかなかいけなかった。時間配分を考えたり, 実技時間の確保が課題。

今後の予定や計画等

〇保健学習の中で, 2 年生の「健康と環境」で薬を作った（武田）授業の発展。
〇学年や進み方で, 個人やグループノートの工夫が必要。

【音楽科】

成果と課題

◎合唱のパート練習（パートリーダーを中心に進めていく）で, 生徒たちが歌わされるという意識から, 自分たち自ら歌っていこうという意識へと変わった。
△鑑賞の活動でのグループ活動（曲の特徴を見つけ出す）は, 生徒たちだけでの取り組みでは, 表面的な

ことだけしか見つけ出すことができないため，グループ活動の前に，分かりやすい教材を用いて，曲の特徴を探す活動を多くして，鑑賞の力を付けさせることが大切である。

今後の予定や計画等

○新しいことをするのではなく，今年度実施したことによる成果と課題を，来年の授業に生かしていきたい。

【美術科】

成果と課題

◎授業始まりの導入時の「確認（＝振り返り）」の徹底

美術は，授業終了時の「振り返り」をするのが，道具の後始末との兼ね合いで，しっかりと時間が取れないことが多い。そこで，「形」として残る作品を，次週の授業で「めあて」の周知と同時に前週までの作品の出来具合，進み具合を「確認」として「振り返り」を行った。

今後の予定や計画等

○グループ活動で制作を行っても，やはり教師を頼り，お互いで高め合おうとする姿勢はあまり見られなかった。来年度は，グループ活動が効果的であると予想される過程でのみ，グループ活動を取り入れ，その他の場面では，一人活動（制作）を取り入れたい。美術はそういった場面で，主体的な活動が多く見られると考えている。

○授業導入時の「めあて」と「確認（＝振り返り）」をもっと生徒たちに意識づけていくための方法を考えていきたい。

Ⅲ　本年度校内研究の課題と考察

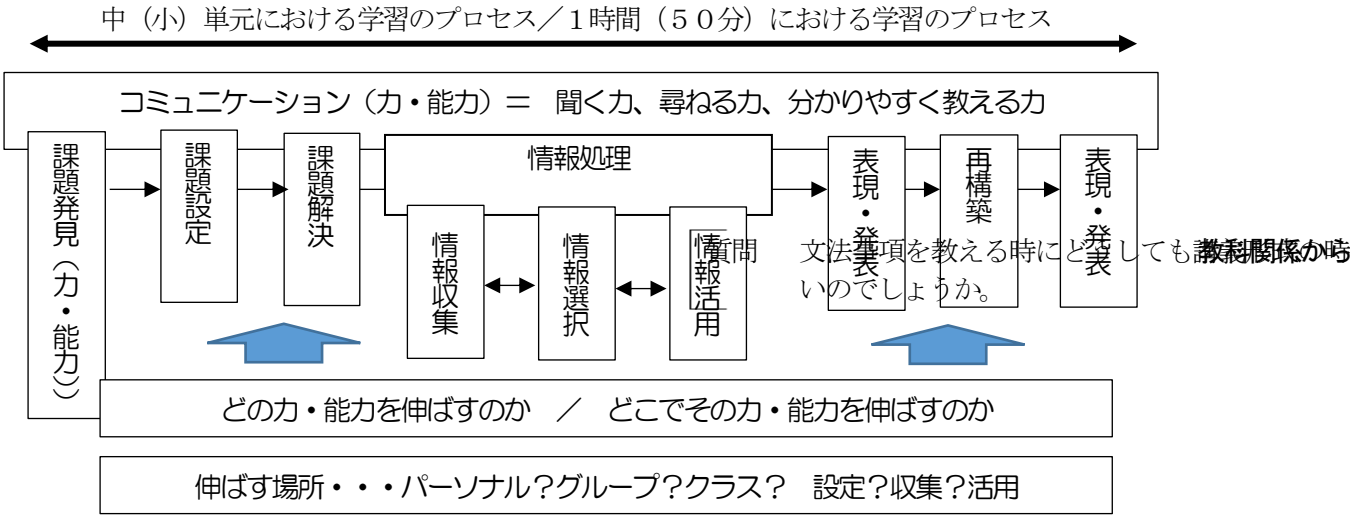
１　アクティブ・ラーニングに関する授業について

（１）日々の授業における学習プロセスの確認

授業実践を進める上でつい見失いがちになるのが学習のプロセスである。

学習進度や教材研究不足から，課題意識を持たせることが十分でないままに授業を実践していることが多い。興味・関心，意欲の喚起は生徒の「なぜ？」や「どうして？」からしか始まらない。つまり生徒が主体的に課題発見，課題設定をせずして深い学びは生まれるものではないと考える。また，課題発見や課題設定を丁寧に行うことがより良い課題解決へと展開するものであろう。

下記に示した学習のプロセスは授業実践において普遍的な公式図と言える。アクティブ・ラーニングは単元計画における課題発見，課題設定する力・能力を重視するとともに，見通しを持った学習活動を展開し，生徒主体の課題解決学習を目指すものである。そこで，下図に基づいた授業デザインを各教科，個人が再度確認しアクティブ・ラーニングの実践が深まるようにしたい。具体的には単元計画における「めあて」を点検し，単元につながりの見える「めあて」を作成したい。



（２）アクティブ３活動（Ｐ・Ｗ，Ｇ・Ｗ，Ｃ・Ｗ）と学習者の班における役割に関する共通理解と教師の役目・心づもり

アクティブ・ラーニングは授業者（先生）からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく，生徒たちが主体的に授業に参加し，仲間と深く考えながら課題を解決する中で様々な力や能力を養うのが目的となる授業である。学習課題を発見する力や解決する力を養う授業手法としては，議論やグループワークなどが一般的である。つまり，アクティブ・ラーニングは教師が重要語句や学習のまとめを黒板に書いて説明したり，指名して発表するというような授業ではなく，生徒が教え合ったり，一緒に学び合ったりしながらインプット，アウトプットを多用しながら学習していく時間が多くなる授業とイメージすることとした。研究主任からは下記の事項について教師に問いを提示し意欲喚起を行った。授業を実践する際，常にこのことを意識できるようにしたい。

○　パーソナル・ワーク…まさに自力解決の意。しかし狭義における自力解決ができない子どもがいます。そのような子に対して、自力解決をどのように定義づけしますか？
○　グループ・ワーク…自分の考えをまとめることは大切です。ではまとめた意見をどのようにして学力として定着させますか？
○　クラス・ワーク…他グループのよりより意見はどのようにして取り入れて自分の意見、自グループの意見を高めますか？
○　タイムキーパー…課題解決に時間は付き物です。
○　司会…グループ員の意見を引き出してまとめる役が必要です。

※１　では、教師は何をするのか？
・先生が話さなくても良いワークシートを作ること！
・可視化すること！
・ただし，英語は語学力の習得ですので先生が教え込む場面が多くなります。
※２　２つ以上の資料を基にしてまとめる力が求められることを踏まえて！
・「何分以内に、何文字で略説しなさい。」

（３）学力が中低位の生徒に対する手立てについて

パーソナル・ワークは自力解決であり，仲間の力を頼らずに個別学習するものであると誤解されがちであるが，そうではないということを共通理解したい。パーソナル・ワークであっても分からないことは尋ねる，支援を受け入れるという「能力」を身に付けさせることが大切である。無論，自力解決をしようとせずして安易に楽に向かおうとする生徒は指導の対象となる。

パーソナル・ワークで重視しなければならないことは立ち止まった生徒にどう支援するかということである。つまり，課題を読もうとしない，理解しようとしない，教科書や資料から解答につながる材料を探そうとしない生徒にどう支援するかである。言い換えれば，何もしようとしない生徒に対してのことである。

「授業は中上位の学力を持つ生徒の理解に焦点を当てて進めるもの。」という言葉をよりどころにして一斉講義型授業が展開される時代があったが，このような授業観では，いずれ主流となるアクティブ・ラーニング学力観に合致するものではなく，「落ちこぼれ」ならぬ「落ちこぼし」を助長し学力の二極化を進めてしまう恐れがあることは明らかである。

このような展望を切実に受け止め，中低位の学力を持つ生徒への手立てを具体的に考えていきたい。そのためには，ワークシートを核とした問いや手立ての提示の仕方とともに，授業者である教師の生徒の実態を瞬時に見極め，即指導，即支援できる教師力の向上であろう。教師としての資質にかかわる部分でもあるが，組織として，および校内研究会からの発信としては，生徒同士のかかわる力や尋ねる力，話を聞く力などを高めるための指導内容を明らかにしながらアプローチしたいと考えている。

（４）その他の課題

① 学習指導案の書き方
② アクティブ・ラーニングを柱とした新学力観に基づく研究
③ 校内環境整備
④ 授業と連動した主体的家庭学習
⑤ 生徒会活動を主体とした業間学習の推進
⑥ アクティブ・ラーニングと生徒指導の機能的統合
⑦ 知識の定着を図る取り組み

Ⅳ　資料

1　アクティブ・ラーニングに関する「鏡中の授業」をよりよくするための生徒アンケート集計結果

○　授業は楽しいですか。

学年	３年生		２年生		１年生	
アンケート実施月	６月	12月	６月	12月	６月	12月
楽しい	9%	13%	18%	23%	28%	19%
どちらかと言えば楽しい	51%	68%	52%	49%	55%	53%
どちらかと言えば楽しくない	34%	16%	25%	26%	12%	20%
楽しくない	6%	3%	5%	2%	5%	8%
	「楽しい」系が81%であり，「楽しくない」系の19%を大きく上回っていた。		「楽しい」系が72%であり，「楽しくない」系の28%を大きく上回っていた。		「楽しい」系が72%であり，「楽しくない」系の28%を大きく上回っていた。	

※自由記述（12月実施分を記載）

《３年生》

1【楽しい】

・学び合いの授業をするようになり，わかる楽しさを覚えた。

・友達と勉強ができる。

2【どちらかといえば楽しい】

・分かりやすいし，社会の時に実際に裁判の様子を再現したりと楽しいから。

・前は楽しかったが，今はグループワークが増えている気がするから。

・楽しいけどわからないときに聞きに行けないから。

・友達に教えてもらったり，教えたりして，頑張って考えるから。

・難しい問題がとけると嬉しい。答えがわかったときすっきりするから。

・グループで教え合えるから，１人で解くよりもわかるから。グループワークが多い教科は学び合えるから。

・苦手教科より得意教科のほうが多いから。

・楽しい教科の時は教え方が上手でわかるからいいけど，楽しくないときは本当につまらない。

・受験前だから。

3【どちらかといえば楽しくない】

・わからないから。

・授業のやり方が嫌な時があるから。

・発表させられるから。

4【楽しくない】

・勉強が嫌いだから。

《２年生》

1【楽しい】

・班で教え合えるから。友達と話し合いながらできるから。学び合いができるから。

・分からないことが分かるようになるから。クラスのみんなが仲良しだから授業も楽しい。

2【どちらかといえば楽しい】

・今まで先生の話を聞くだけでつまらなかったから。分からなかったことが分かるようになるから。

・グループ活動で協力して課題に取り組めるから。まあまあ楽しいが授業中にしゃべる人がいて集中できない。

・うるさい時がある。

3【どちらかといえば楽しくない】
・授業と関係ない話を大声でする人がいるから。わからないから。
・授業中うるさい人がけっこういるから。友達に授業の質問しているのに怒られる。
・うるさくて先生の声が聞こえないときがある。グループワークをするのはいいが,意見が出にくい。

《1年生》
1【楽しい】
・先生が面白く分かりやすく説明してくれるから
・友だちと学び合えるから
・分からないところが分かるとうれしいから
2【どちらかといえば楽しい】
・人と話し合ったりできるから
・楽しい教科もあれば,楽しくない教科もあるから
・グループワークがたくさんあり,答えなど交流できるから
・明日の内容を見て予習しているから,分かって楽しい
・みんなとGW,CWをするのが楽しいから
3【どちらかといえば楽しくない】
・周りの人が騒がしくて,集中できない
・パーソナルワークが多い
・勉強自体が嫌いで苦手だから
4【楽しくない】
・授業内容が全く分からない
・真面目すぎる,面白い話も織り交ぜてやってほしい

○　授業で勉強の内容は分かりますか。

学年	3年生		2年生		1年生	
アンケート実施月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
分かる	4%	11%	12%	17%	30%	18%
どちらかと言えば分かる	57%	73%	56%	57%	57%	62%
どちらかといえば分からない	29%	14%	25%	22%	10%	18%
分からない	10%	2%	7%	4%	3%	2%
	「分かる」系が84%であった。「分からない・分からない」系の16%を大きく上回っている。		「分かる」系が74%で,「分からない」系の26%を大きく上回っていた。		「分かる」系が80%で,「分からない」系の20%を大きく上回っていた。	

※　自由記述（12月実施分を記載）
《3年生》
1【分かる】
・予習しているから。
・友達が親切にわかるまで教えてくれるので,以前よりわかるようになった。

2【どちらかといえば分かる】
・ほかの人の意見も聞けて理解しやすいから。グループワークで学び合えるから。
・数学や英語の先生の説明や解説がとても分かりやすいから。
・塾で教えてもらうから。
・難しい問題が一人でできないから。

3【どちらかといえば分からない】
・勉強していないから。
・ついていけないから。
4【分からない】
・小学生の時からわからなくなったから。

《２年生》
1【分かる】
・グループワークで分かりやすく教えてもらえるから。わかりやすいから。
・自分なりには理解している。
2【どちらかといえば分かる】
・先生の授業よりグループの方が分かりやすいから。苦手な分野があるから。
・数学と英語は,微妙だけどそれ以外はどちらかと言えば,分かる。
3【どちらかといえば分からない】
・先生の教え方がよくわからない教科もある。
・先生の教え方が下手。

《１年生》
1【分かる】
・授業が分かりやすい。プリントなどで細かく説明してくれる
・とても分かりやすく教えてくれる
・先生の話を聞いて,しっかり活動していれば分かるから
・グループでしっかりと学べるから
2【どちらかといえば分かる】
・学び合って問題を追究したら分かるから
・友だちに教えてもらうと分かりやすくなるから
・得意教科は分かるが,苦手な教科は分からない事がある
3【どちらかといえば分からない】
・書くのが追い付けないときがあるから
・分かる教科もあれば,分からない教科もあるから
4【分からない】
・進むスピードが違うし,「待って！」と言いにくい

○　「グループワーク」を取り入れた授業についてどう思いますか。

学年	３年生		２年生		１年生	
アンケート実施月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
好き	30%	37%	49%	51%	52%	44%
どちらかと言えば好き	47%	47%	37%	38%	33%	43%
どちらかと言えば嫌い	17%	14%	13%	7%	12%	7%
嫌い	6%	2%	2%	4%	3%	6%
	「好き」系が84%であった。「嫌い」系の16%を大きく上回っていた。		「好き」系が89%であった。「嫌い」系の11%を大きく上回っていた。		「好き」系が87%であった。「嫌い」系の13%を大きく上回っていた。	

※自由記述（12月実施分を記載）
《３年生》
1【好き】
・いろいろな意見が出るから。
・わからないところをすぐに周りに聞けるから。友達だと遠慮なく聞けるし,一緒に考えるから楽

しい。
・分かるから。また,友達に教えることが楽しいから。
・皆で教え合えば解決に近づくから。
2【どちらかといえば好き】
・自分の言葉では説明できなくても,友達の言葉を借りて説明できるようになったから。
・分からないところを友達に教えてもらえるから。
・自分と違った意見が聞けるから。
3【どちらかといえば嫌い】
・グループワークだからと言って成績が上がるわけではないから。
・あまり話さない人と同じグループになっても,授業がわからないだけだから。班によっては話さないところもあったから。
・ 教えたいのに寝る人が多いので暇だから。
・グループワークによって授業が進まないことがあるから。
・授業に関係ない話ばかりしているから。
・グループにしても一部でしか教え合いができていないから。
・あんまり生徒に投げすぎ。わからないから先生に聞いているのに「話し合え」とか「教科書を見ろ」と言われたって困る。
・先生が注意するとき「世間話はＮＧ」と言わないでほしい。普通に「静かに」と言ってほしい。

《２年生》
1【好き】
・いろいろなことを聞けるから。みんなで協力できるから。分からないところを自分たちで意見を出して,答えを導くから。
・教え合えるから。分からないところが聞けて,すぐに解決するから。
2【どちらかといえば好き】
・分かるようになることが多い。教え合いができるけれど,世間話をする人がいるから。
・他の人の意見も聞くことができるから。
3【どちらかといえば嫌い】
・普通の授業の方が分かりやすい。
・しゃべる人がいる。
4【嫌い】
・意見が出にくい。話が進まない。

《１年生》
1【好き】
・みんなと意見を言い合えるから
・分からないところもみんなに聞くことができるから
・分からない問題があったらすぐに聞けるし,いろんな人とのコミュニケーションもとれるから
・気軽に分からないところを友だちに聞けるから
・一人で考えるより,みんなで考えた方が分かる
・友だちと考えを出し合ってできるから

2【どちらかといえば好き】
・他の人と交流できる
・少しうるさくなるが,いろんな人に聞けるから
・分からない時に問題のヒントを教えてもらえるから
・友だちだから質問しやすい
3【どちらかといえば嫌い】
・一人でした方が頭に入る

・頑張って調べていたのに,勝手に写すから
・答えを写すだけで,考えない人がいるから
・一人の方が集中できるから
4【嫌い】
・グループより一人がいいから
・一人でやった方が分かるから
・一人でした方が早く終わるから

④授業で「グループワーク」の時間を増やしていきたいですか。

学年	３年生		２年生		１年生	
アンケート実施月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
増やしたい	26%	32%	45%	48%	42%	50%
どちらかと言えば増やしたい	43%	42%	40%	36%	45%	32%
どちらかと言えば増やしたくない	24%	22%	10%	10%	11%	16%
増やしたくない	7%	4%	5%	6%	2%	2%
	「増やしたい」系が74%であった。「増やしたくない」系の26%を大きく上回っていた。		「増やしたい」系の84%が「増やしたくない」系の16%を大きく上回っていた。		「増やしたい」系の82%が「増やしたくない」系の18%を大きく上回っていた。	

※　自由記述（12月実施分を記載）
《３年生》
1【増やしたい】
・分からないところを教えてもらい,理解するスピードが速くなると思うから。
・分かりやすいし,先生より友達のほうがわからないところを聞きやすいから。
・わからないところをもっと聞きたい。
・自分も教えたり教えられたりすることで,内容がもっとわかるようになるから。
2【どちらかといえば増やしたい】
・分かりやすいけど,一人でしたいときもあるから。
3【どちらかといえば増やしたくない】
・今で十分だと思うから。
・増やしたい授業もあるけど,増やしたくない授業もある。
・あまりもめ事が起きないほうがいいと思ったから。
・グループワークではなく自由に聞けるほうがいいから。
・学び合いを意識しすぎて,どの先生も「学び合い,学び合い」言い過ぎで嫌だ。
・何もしない人がいるから。
4【増やしたくない】
・いらないと思う。

《２年生》
1【増やしたい】
・分かりやすいから。先生の授業よりグループの方が分かりやすいから。
・先生の授業よりグループの方が分かりやすいから。友達と教え合うとわかりやすいし楽しいから。
2【どちらかといえば増やしたい】
・みんなで協力できるから。今までよりも鏡中の学力向上に努めたいから。
・分かることが増えるから。

3【どちらかといえば増やしたくない】
・今のままでいいから。
4【増やしたくない】
・今以上に取り入れる必要はないと思います。分かりにくい。間違いなのかわからない。

《１年生》
1【増やしたい】
・グループワークの方が先生が説明するより分かるから
・無駄な話も多いが, 分かるときが多いから
・グループの中で説明して, 自分が分かっているか確かめられるから
・グループワークの方が成績が上がるから
・友だちに聞いたりして, どんどん進むことができるから
2【どちらかといえば増やしたい】
・グループの方がいいときと個人の方が分かりやすい場合があるから
・いろんな意見などを聞けるから
・分からないところを聞きやすいから
・一人の時間が多い気がする
3【どちらかといえば増やしたくない】
・答えを見る人がいる。自分で考えた方がいい
・騒がしくなるから, できるだけ個人がいい
・写して終わりの人もいるから
・一人で集中したいときが多いから
4【増やしたくない】
・一人でした方が早く終わるから
・一人の方がはかどるから
・このままでよい。逆に減らしてほしい

「鏡中の授業」をよりよくするためのアンケート　分析結果

※大野先生作成

本年度の取り組みの成果を検証するために,６月と１２月に行った質問紙による調査結果を分析した。質問は次の①～④であり,４件法である。

① 授業は楽しいですか。
② 授業で勉強の内容は分かりますか。
③ 「グループワーク」を取り入れた授業についてどう思いますか。(好きか嫌いか)
④ 授業で「グループワーク」の時間を増やしていきたいですか。

○１年生

１年生	楽しい	分かる	GW好き	GW増やしたい
	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)
６月	3.11 (0.73)	3.13 (0.68)	3.35 (0.79)	3.28 (0.86)
１２月	2.84 (0.83)	2.95 (0.67)	3.27 (0.84)	3.24 (0.90)
F値 (1,100)	11.32**	7.50**	1.23	0.26

*p≦.05,**p≦.01

全質問項目にわたり平均値が下がっている。被験者内一元配置分散分析を行ったところ,

※
・「楽しい」　F値はF(1,100)=11.32　となり，１%水準で有意な差が見られた。
・「分かる」　F値はF(1,100)=7.56　となり，１%水準で有意な差が見られた。

※ １年　下がった項目の自由記述（ネガティブな理由）

○「楽しい」に関して
・パーソナルワークが多い
・みんなで学び合いができないから
・周りの人がさわがしい　男子がうるさい
・授業中にちょっかいを出したりする人がいる
・勉強が嫌いだから　好きじゃない　苦手
・楽しいときとそうでないときがある
・分からないから　面白くない　つまらない

○「分かる」に関して
・進むスピードがちがうし「まって」と言いにくい　書くのがおいつかないときがある
・だいたいは分かるけど,いっぱい大事な言葉などがでると少し分からなくなる
・周りの人と話し合えない
・授業妨害の人が数人いる
・分かる授業と分からない授業で差がある

○２年生

２年生	楽しい	分かる	GW好き	GW増やしたい
	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)
６月	3.00 (0.69)	2.81 (0.65)	3.38 (0.73)	3.25 (0.85)
１２月	3.13 (0.71)	2.88 (0.72)	3.41 (0.74)	3.31 (0.89)
F 値 (1, 67)	2.36	0.75	0.16	0.38

*p≦.05,**p≦.01

全質問項目にわたり平均値が上がっている。被験者内一元配置分散分析を行ったところ,全項目有意な差が見られなかった。

○３年生

３年生	楽しい	分かる	GW好き	GW増やしたい
	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)
６月	2.61 (0.77)	2.59 (0.71)	3.02 (0.88)	2.76 (0.99)
１２月	2.80 (0.68)	2.86 (0.61)	3.10 (0.84)	2.93 (0.99)
F 値 (1, 86)	4.95*	13.13**	0.59	1.91

*p≦.05,**p≦.01

全質問項目にわたり平均値が上がっている。被験者内一元配置分散分析を行ったところ,

※
・「楽しい」　F 値はF(1, 86)=4.95　となり，５％水準で有意な差が見られた。
・「分かる」　F 値はF(1, 86)=13.13　となり，１％水準で有意な差が見られた。

※ ３年　上がった項目の自由記述（ポジティブな理由）

○「楽しい」に関して
・アクティブ・ラーニング（ラーニングルール）を取り入れてから分かりやすくなった
・学び合いの授業をするようになり, 分かる楽しさを覚えた
・グループワークがあるから　一人でするよりも分かる　友達とできる
・先生の教え方が上手
・分かるから
・難しい問題を解けるとうれしい　答えが分かるとすっきりする
・受験前だから

○「分かる」に関して
・グループ活動で教えてもらえる　他の人の意見も聞けて理解しやすいから
・友達が親切に分かるまで教えてくれるので以前より分かるようになった
・先生の説明や解説がとても分かりやすいから
・予習しているから
・塾で教えてもらうから

２　校内研究の実施状況

今年度は，これまでの研究内容を生かしながらも本校の課題である学力向上に向けて，全教科，全職員でアクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善に取り組んだ。

月　日　（曜）	校内研究会の内容
① 4 月 22 日（金）	（校内研究推進委員会 1 回目） 研究テーマと校内研究組織の提案
② 5 月　2 日（月）	第１回校内研究会　（全体会で提案） 研究テーマと校内研究組織の提案
③ 5 月 24 日（火）	（校内研究推進委員会 2 回目） 第 2 回校内研究会の内容について
④ 6 月 7 日（火）	生徒アンケートの実施①
⑤ 6 月　1 日（水）	第２回校内研究会　（全体会） 授業研究会①　英語科，理科，社会科
⑥ 7 月 11 日（月）	（校内研究推進委員会 3 回目） 第 3 回校内研究会の内容について，指導案様式の検討
⑦ 7 月 20 日（水）	第３回校内研究会　（全体会） 指導案様式の提案，鏡中のラーニングルール
⑧ 8 月 9 日（火）登校日	第４回校内研究会（全体会＋教科部会） 指導案作成及び検討①，授業参観の報告
⑨ 8 月 22 日（月）	第５回校内研究会　（全体会＋教科部会） 指導案作成及び検討②，鏡中のラーニングルール検討
⑩ 8 月 31 日（水）までに	指導案の提出
⑪ 9 月 15 日（木）	（校内研究推進委員会 4 回目）
⑫ 9 月 21 日（水）	（校内研究推進委員会 5 回目）
⑬ 9 月 28 日（水）	第６回校内研究会　（全体会） 学習状況調査の分析結果，単元名作成づくり（演習）
⑭ 9 月 29 日（木）	（校内研究推進委員会 6 回目）
⑮10 月 19 日（水）	第７回校内研究会　（全体会） 指導案の完成，11 月の授業公開の準備，リハーサル
⑯10 月 31 日（月）	（校内研究推進委員会 7 回目）
⑰11 月 9 日（水）	第８回校内研究会　※最終確認
⑱11 月 25 日（金）	第９回校内研究会（全体会） 唐津市学力向上研究会（授業公開）　全教科・全職員
⑲12 月 19 日（月）	（校内研究推進委員会 8 回目）
⑳12 月 21 日（水）	第 10 回校内研究会　（全体会） 授業公開の反省，教科部会による授業交換会
㉑12 月 22 日（木）	生徒アンケートの実施②
㉒ 1 月 12 日（火）	（校内研究推進委員会 9 回目）
㉓ 1 月 26 日（木）	（校内研究推進委員会 10 回目）
㉔ 2 月 2 日（木）	第 11 回校内研究会　（全体会） 授業公開日，県学習状況調査の結果分析， 井上一郎先生からの授業講評・講話
㉕ 2 月 16 日（木）	（校内研究推進委員会 11 回目）
㉖ 3 月 1 日（水）	第 12 回校内研究会　（全体会） 先進校視察報告，新学習指導要領についての報告， 教科部会での振り返り
㉗ 3 月 23 日（木）	（校内研究推進委員会 12 回目）

Ⅰ　平成29年度　唐津市立鏡中学校　校内研究計画

１　研究テーマ

主体的に学び続ける生徒の育成
～伝え合う力を育むアクティブ・ラーニング授業を通して～

２　テーマ設定の理由

平成 29 年 3 月に公示された次期学習指導要領では, 社会の変化が加速度を増す中で, これから学んでいく子どもたちが大人になる 2030 年頃の社会の在り方を見据えながら, 一方的に知識を得るのではなく, 「主体的・対話的で深い学び＝アクティブ・ラーニング（以下：ＡＬ）」の視点から, 授業改善をさらに充実させ, 子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け, 生涯にわたって能動的に学び続けることを目指している。具体的には, 討論など課題に対して意見を出し合い, 解決方法を探る授業をはじめ, 国語では授業で学んだ語彙を表現に生かしたり, 数学で学んだ数式や社会で学んだ情報を, 問題を解く為だけでなく, 身近な場面に結び付けたりと, 授業で学んだことをいかに実生活に結び付け, いかしていける力を養うかを課題としている。本校でも昨年度から, 学力向上に向けて, 全教科, 全職員で教科部会を中心にしてＡＬを取り入れた授業改善に取り組み始めたところである。

校区内の小学校ではＡＬの研究, 実践が進められている。そのため, 「話すこと」や「書くこと」に対する抵抗感はあまりない。しかし, 積極的に仲間とかかわり, 他者の考えを引き出そうとしたり, 自分自身の考えを整理するために学び合いを深めようとしたりするにはいたっていない。グループ学習においては, 場面や空気に応じて相手に尋ねたり, 相手の考えを聞き取ったりすることが必要になってくる。そこで, 本校ではこのような「尋ねる力」や「聞き取る力」のことをまとめて「伝え合う力」と捉えることとした。この伝え合う力を育むために, ＡＬにおけるグループワーク, 及びクラスワークでの学習者同士のかかわりを重視し, 個と個をつなぐ開発的生徒指導の視点での授業づくりを展開する。このようにして主体的な学習活動を促すことができる授業力の向上をＡＬに求めていく。つまり, 仲間との豊かなかかわりの中で育まれる学び合いや高め合いが学習意欲の向上プロセスを徐々に高める手立てとなることから, このような考えを基に, ＡＬの有用性を価値付けしている。

研究を進めるにあたっては, 学習者主体の学習活動つまり, 伝え合う力を育むＡＬ授業を通して学力向上を図ることで, 生徒の自己肯定感が向上するものと考える。

以上のような理由から本主題を設定した。これらの研究実践を通して, 主体的に学び続ける生徒の育成を目指していきたい。

３　校内研究組織

社会科部会

○毎週金曜日の３校時に開催し, 研究内容や授業, ワークシート等の情報交換及び協議を行う。

４　研究の内容

(1) 主体的な学習を仕組むための課題設定のあり方
(2) 対話的な課題解決学習を仕組むためのワークシートの工夫
(3) 深い学びに導くための汎用的能力の育成
(4) アクティブ・ラーニングの評価のあり方

５　研究の方法

(1) 先進校視察によりアクティブ・ラーニングの理論や手法を学び，授業実践にいかす。
(2) カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについての理論研究を先行研究論文や書籍によって行う。
(3) アクティブ・ラーニング授業を広く公開し，研究者等から指導・助言を受け，授業実践にいかし，授業改善を行う。

６　期待される成果

(1) アクティブ・ラーニング授業を実践することで,教科の見方・考え方が身に付き,深い学びにつながる。
(2) 統一した授業研究を行うことで,教師の授業力向上と授業改善につながる。
(3) ワークシートの共有化を図ることで,すぐにアクティブ・ラーニング授業に取り組むことができる。

７　年間計画について

月　日	研　究　内　容
４月	◎4/14（金）次期学習指導要領研究指定 □研究主題、研究計画等の作成及び検討 □研究主題、研究計画等の決定
５月	◎5/10（水）校内研①：研究主題及び研究組織の決定等 □次期学習指導要領（社会科）の共通理解
６月	◎6/11（日）唐津市教育の日　教育講演会（講師招聘：西川 純先生） □授業研究会（10 月 10 日）の内容検討 □ワークシートの作成及び検討 ◎6/28（水）校内研②：授業研究会（1 年理科：大野先生・2 年社会科：伊東先生）
７月	○福岡市立東光中学校（学び合い）授業参観 7/11（火） ◎7/21（月）校内研③：学習指導案の作成及び検討 ○7/27（木）次世代型教育推進セミナー※佐賀市 ○7/27（木）～28（金）中学校新教育課程説明会（社会）※福岡市
８月	○8/ 1（火）新教育課程説明会 ◎8/ 9（水）校内研④：学習指導案の作成及び検討（教科部会） ◎8/21（月）校内研⑤：次期学習指導要領（伝達講習会） 8/21（月）～25（木）教科部会による学習指導案検討会 8/31（木）までに学習指導案の提出
９月	○福岡市立東光中学校（学び合い）授業参観 9/19（火）, 9/26（火） ◎9/27（水）校内研⑥：唐津市学力向上研究会の事前準備について
10 月	◎10/10（火）唐津市学力向上研究会：鏡中学校授業公開日 公開授業参観　　講師招聘：井上一郎先生 公開授業後に授業研究会（社会科のみ） ○福岡市立東光中学校（学び合い）授業参観 10/17（火） ○10/31（火）唐津市学力向上研究会：鏡山小学校授業公開日
11 月	◎11/1（水）校内研⑧：文科省視学官（澤井陽介先生講演） ○11 月中旬　先進校視察（香川県高松市）

	◎11/29（水）校内研⑨：２学期の成果と反省
12 月	佐賀県学習状況調査の実施日 12/6（水）
1 月	◎1/31（水）校内研⑩：授業研究会
2 月	○2 月上旬～中旬　先進校視察 ◎2/28（水）校内研⑪：今年度の成果と反省

◎鏡中校内研究会の内容　□鏡中社会科部会での検討内容　○校外での研修会

Ⅱ　研究の実際

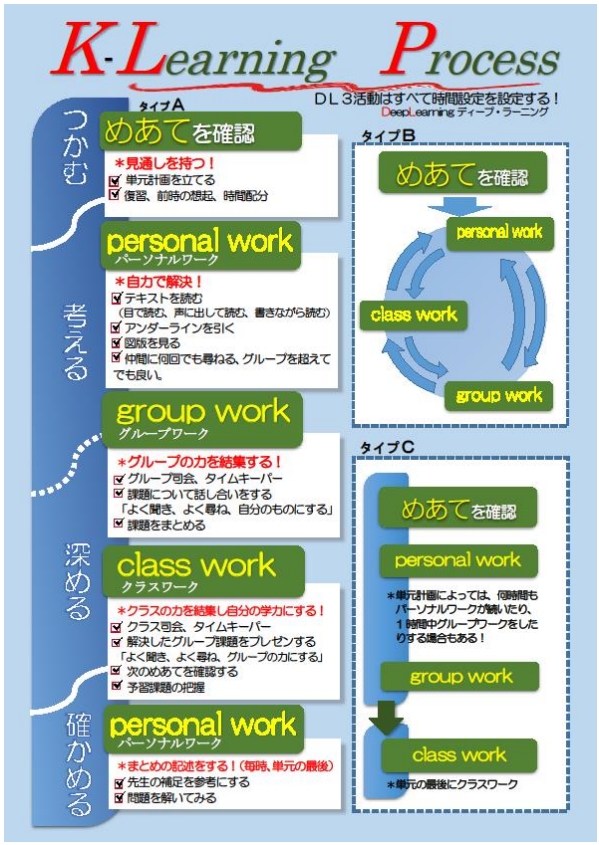
１　２年目４月当初の職員室の空気

（１）異動によって新しく入ってきた職員への周知

学力向上指定も２年目を迎え, 10 月 10 日（火）の公開授業に向けて研究も動き出した。４月の職員会議で研究テーマと年間計画を提案した。5 月 10 日（水）の第１回校内研究会では, 今年度研究の方向性と同時に新しく入ってきた職員に対して「K. G. M. Learning rule」等のプレゼンテーションを行った。

（２）小中連携事業を通しての学力向上

5 月 24 日（水）に行われた鏡山小学校との小中連携では, 主に中学校１年生の様子を小学校の先生に参観してもらった。その後の全体協議会では, 研究主任より「アクティブ・ラーニングガイダンス」というタイトルで, 小学校の先生に鏡ラーニングルールやKーラーニングプロセスについて説明した。また, 中学校の方からは, 6 月 21 日（木）に鏡山小学校５年生の理科の授業参観をした。



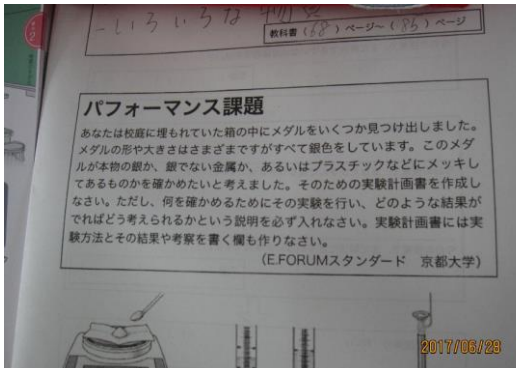
中学校の授業風景（小学校の先生が参観）

小学校の授業風景（中学校の先生が参観）

２　校内研究会での提案授業は６月２８日

（１）大野誠教諭の理科の授業（１年２組）

【ＡＬの視点】
「主体的･対話的な深い学び」を目指して「逆向き設計論」で単元の計画を立てました。生徒が単元の計画を立てる時間を設定することで、学習者がいかに授業者の意図をふまえて主体的な活動とするのかがＡＬの視点でした。



唐津市立鏡中学校　**社会科と理科**

「主体的・対話的な深い学び」
の実現に向けた公開授業

2017年
6月28日 水 5時間目 13:45～14:35

＊学習指導案は略案形式となります。
＊当日は校内研究の研究授業ですので授業研究会等の予定はございませんので，授業参観のみとなります。
＊参観のお申込は必要ありません。当日受付となります。

	社 会	理 科
授業者	伊東　泰弘　教諭	大野　誠　教諭
学年・学級	２年３組	１年２組
単元名	人口減少について，日本はどのような政策を採るべきか!?	いろいろな物質
アクティブ・ラーニングの視点	生徒による司会団を中心に，パーソナルワーク，グループワークによる対話で思考を深め，クラスワークでは日本の人口減少対策として外国人労働者の受入れのメリット，デメリットについて討論します。	「主体的･対話的な深い学び」を目指して「逆向き設計論」で単元の計画を立てます。本時は生徒が単元の計画を立てる時間です。学習者がいかに授業者の意図をふまえて主体的な活動とするかがＡＬの視点です。

お問い合わせ
唐津市立鏡中学校　佐賀県唐津市鏡 1136 番地　電話 0955（77）0500　Fax 0955（77）3296　教頭　千北 邦博

（２）伊東泰弘教諭の社会科の授業（２年３組）

【ＡＬの視点】
　生徒による司会団を中心に，パーソナルワーク，グループワークによる対話で思考を深め，クラスワークでは日本の人口減少対策として外国人労働者の受入れのメリット，デメリットについて討論しました。

（３）授業研究会

３　授業力（アクティブ・ラーニング）向上の醸成を目指した取組

（１）先進校視察（福岡市立東光中学校：７月～１０月にかけて）

先進校視察により学び合い等のアクティブ・ラーニング（ＡＬ）の理論や手法を学び, 授業実践に活かしてもらうために４回に分けて計１５名の職員を派遣した。授業参観の様子は校内研や職員会議で報告会を行い, 共有することにした。

学校訪問についての依頼文書（一部抜粋）

１　研究テーマ

２　訪問日及び訪問教員

回	訪問日	訪問教員（15名）			
1	7月11日(火) ９：30～	隈本　亜海 （国語）	古賀　智久 （社会）	井邊　伸一郎 （数学）	大浦　穂美香 （数学）
2	9月19日(火) ９：30～	千北　邦博 （理科）	山崎　　泰 （社会）	飯笹　智子 （家庭）	吉松　美加 （英語）
3	9月26日(火) ９：30～	大野　　誠 （理科）	宮崎　裕樹 （理科）	岩本　耕輔 （数学）	
4	10月17日(火) ９：30～	吉田　三重子 （国語）	平野あずさ （英語）	中島　奈津美 （英語）	伊東　泰弘 （社会）

福岡市立東光中学校　授業参観

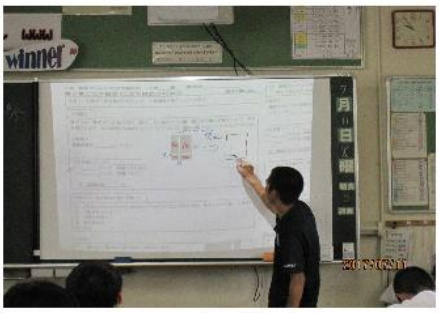
（２）先進校視察に関する校内研究会での報告会

校内研での報告は, 口頭または資料（下記資料）で行っている。授業参観後, 早速授業に取り入れる職員も出てきている。

東光中学校　視察報告　　第一回視察　井邊　大浦　隈本　古賀　　報告：古賀

写真は、3 年生の数学の授業のようす。入試対策問題、解説のあとに、25 分間の学びあいを行う。

授業の最後には、『学びあい』の内容の確認テストを行い、自己採点させていた。



黒板右側

・ホワイトボードに
　ワークシートを投影

・教師の解説に使用

黒板左側

・めあての提示　　・本時の流れ

・終わった人のコーナー（ネームプレート）

誰と一緒に学びあったか記録する名簿

（３）生徒会学習部主催の学び合い勉強会の実施

生徒会の学習部において，期末テスト前で部活動が停止になる期間に合わせて勉強会を企画した。6 月 19～20 日の２日間で１年生から３年生まで延べ６２名の生徒が参加した。勉強会に参加した１年生からも好評であったため，２学期も期末テスト前の 11 月に実施する予定である。

学び合い勉強会の様子

生徒会 学習部主催の『学び合い』勉強会について（学習部長が提案した実施要項）

①目的：ただ勉強するだけではなく、教え合うことで一人ひとりの能力がより高まることを目的とする。
②実施方法：
【日時】6/19（月）と 6/20（火）の放課後（50 分）【場所】図書室
【対象者】全学年の希望する生徒　【持ってくるもの】自分がしたい勉強道具を持参
③具体的な内容：
【1 年】テスト勉強の仕方を学習委員が教える　【2, 3 年生】テスト勉強を『学び合い』で行う

■３年生の学習委員からやさしく勉強の仕方を教えてもらって分かりやすかった。
■３年生の自主学習の内容がすごかったので真似したい。

■『学び合い』勉強会で先輩の自主学習ノートを見せてもらった。色も使い、とてもぎっしりと書いてあってすごかった。今度からは色も使うようにしたい。

（４）スイスイゴー（補充学習）の取組

毎週水曜日の午後に実施するため，スイスイゴーと名付けら，４年前から本校独自の補充学習として実施している。当初は，３教科（国・英・数）であったが，現在は５教科で実施している。

平成 29 年度　スイスイゴー実施要領より（一部抜粋）
1. 目的
○汎用的能力（グラフの読み取り、文の書き方）を身に付ける。
○5 教科の基礎・基本の定着を図る。
○学習への意欲づけと学習習慣の確立を図る。
2. 期日　平成 29 年 6 月から平成 30 年 3 月まで水曜日に実施
3. 時間　5 時間目終了後 10 分後に開始
4. 学習クラスマッチとの連携
○ 1 学期（6/14 国語）2 学期（11/15 英語）3 学期（2/14 数学）
○スイスイゴーの問題の中から、学習部で学習クラスマッチ問題を作成

スイスイゴーの様子（３年）

（５）鏡中校内研究通信の発信

昨年度より継続して，主に職員向けに発行している。

校内研究（ＡＬ）通信

唐津市立鏡中学校　校内研究（AL）通信　2017.8.29(火) 第１号
文責：研究主任 伊東　泰弘

夏季休業中の「学力向上」に関する研修会を紹介します！

(1) 校内研修編　夏期休業中に３回の校内研究会を実施しました。

① (7/21) 第３回校内研究会

全体会の内容
(1) 福岡市立東光中学校視察報告（古賀）
(2) 学習指導案の様式及び指導案例の提案及び質疑応答（伊東）
(3) 学習指導案の提出及びチェックについて（伊東）
(4) 公開授業の希望クラス調査及び取りまとめ（大野）

福岡市立東光中学校視察の様子

② (8/9) 第４回校内研究会

全体会の内容
(1) 次世代型教育推進セミナー参加報告（宮崎）
(2) 学習状況調査を活用した校内研修（古賀・伊東・宮崎）

学年ごとに，教科（国語・数学）のデータを分析。気付いた成果と課題を基に，成果を伸ばしたり，課題を解決したりするための手立てを考えました。

分析及び協議の様子（１年）　分析及び協議の様子（２年）　分析及び協議の様子（３年）

成果を伸ばしたり，課題を解決したりするための手立てとして・・・

１年生	２年生	３年生
【国語】 ・継続して，無解答にしない指導をしていく ・漢字を覚える家庭学習の充実 ・ミニテスト 【数学】 ・公式に頼らない ・少人数	・お互いに説明する機会を増やす（キーワードを使って） キーワード・・・その時間に学習した大切な学習用語 ・キーワードの定着のため，くり返し学習が必要 ・時間を意識した活動が必要	【国語】 ・基本知識定着のため，くり返し学習，振り返りテスト，週末テストなどのミテスト的なものが必要 【数学】 ・単元のまとめで，生徒による問題の作成（文章題の作成） ・生徒同士で解いてみる→思考，考え方の向上が図れるのではないか（１年生時にやってみて効果が出た）

（６）校長徒然（学校通信）の発信

主体的で対話的な深い学び「アクティブ・ラーニング」コーナーが設けてあり，本校職員の授業実践の様子が紹介されている。

校長徒然（第 12 号）から一部抜粋

9 月 14 日，全校朝会の後，1 年 1 組の生徒は，理科室に遅れることなく入室，さらに先生が理科室に入られたときには，すでに授業を始めていたとのことです。つまり，「主体的で対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）」という「学習するということとは何ぞや。」ができている状況です。

よりよい学習の仕方は，仲間とともに，何を学習するのかを意識していることです。その意識の高さが，既定の学習内容以上のことを子ども一人一人から引き出します。つまり，「深い学び」です。

Ⅲ　本年度校内研究の課題と考察

１　アクティブ・ラーニングに関する授業について

（１）日々の授業における学習プロセスの確認

（２）アクティブ３活動（PW, GW, CW）と学習者の班における役割に関する共通理解と教師の役目・心づもり

（３）学力が中低位の生徒に対する手立てについて

（４）その他の課題

各教科の先生方の声（意見）

各教科	１学期の授業の進め方やワークシートについて
音楽科 美術科 技術科 家庭科	○実技等では,グループワークができていると思うが,上位・中間・下位層の生徒の評価をすることが難しい。 ○各教科共にワークシートが必要な単元と必要でない単元がある。 ○家庭科は来年度の全国大会の発表に向けたワークシートを使用する予定である。単元終了後には,字数制限でのまとめをさせたりして課題に取り組みたい。
国語科	○グループ学習を６割以上入れる。 ○２,３学期には,１単元ずつは学習計画表を作る。 ○定期テストに記述式の設問を１つは入れる。グループで深められた考えを書けるような問題にする。
英語科	○ペアでの単語発音チェックをさせる。 ○グループでの回し読みをさせる。 ○ワークシートを各自で作成し、共有しながら開発していく。 ○学期ごとにCan Do リストで見通しをもたせ、振り返りができるようにする。 ○毎時間黒板にめあてを書いて確認する。 ○活動のMenu を知らせる。
数学科	○課題によっては,説明が難しいものがあり,授業でどのように取り組んでいくかが課題である。 ○ワークシートに取り組み始めた。
理科	○予想→実験→まとめ　発表で時間がかかるのでその工夫 ○自己評価,他己評価　グループ固定 ○OPPA を活用 ○単元課題設定の工夫（教科書の設定を利用して） ○ねらい（めあて）が到達点 ○参考書等が理科室や教室にあれば,アクティブ・ラーニング（学び合い）が活発になる。 ○パフォーマンス評価
保健 体育	○各単元ごとにワークシートをつくる ○めあての設定の仕方を工夫
社会科	

学習指導案に記している「授業の視点」について

本年度より, 学習指導案の「１　単元名」や「２　単元について（３）指導観」の中に「授業の視点」として唐津市学力向上アクションプラン（ＡＰ）の重点項目を記載している。生徒の課題を解決するために特に力を入れるべき「学力向上アクションプラン」の番号（②～⑪）を選び, 解決を図るための具体的な手立てを記入することで, 具体的な授業改善に取り組むことをねらいとする。

※学力向上アクションプランチェックシートより一部抜粋

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th>チェック内容</th></tr>
<tr><td>①</td><td colspan="2">教育課程</td><td>カリキュラム・マネジメント
※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。</td></tr>
<tr><td>②</td><td colspan="2">単元</td><td>単元の学習過程
※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。</td></tr>
<tr><td>③</td><td rowspan="11">1単位時間</td><td rowspan="2">課題提示</td><td>単元全体の見通しと現在地の把握
※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>本時の学習課題の把握
※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td rowspan="7">学習活動（課題解決）</td><td rowspan="9">個別の課題解決学習（PersonalWork）＊
※課題解決の時間や場を確保しているか。</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>グループによる課題解決学習（GroupWork）＊
※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話合いの場を仕組んでいるか。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>クラスによる課題解決学習（ClassWork）＊
※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>教師による解説、解決、解答
※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。</td></tr>
<tr><td>⑨</td><td>子どもの最終的な記述（表現）
※本時の学習課題と対応した記述（表現）をさせているか。</td></tr>
<tr><td>⑩</td><td rowspan="2">評価</td><td>学習の振り返り
※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。</td></tr>
<tr><td>⑪</td><td>条件に応じた記述（書く力）
※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。</td></tr>
</table>